

但馬地方震後ノ家屋建築及

修理ニ關スル注意

大正十四年五月二十三日但馬地方ニ起レル激震ニ際シ構造物ノ被害ヲ調査スルニ同地方一般ノ家屋ハ耐震上次ノ如キ缺點ヲ有セシガ如シ。

- 一 家屋ハ一般ニ壁體少ナク唯或ル一方向ノ外壁ヲ有シ之ニ直交スル外壁又ハ内壁殆ンド無シ、之ガ爲メニ一方向ノ振動ニ對シテハ相當ノ抵抗力アルモ之ニ直角ナル方向ノ振動ニ對シテハ抵抗力殆ンド無キコト。(第一圖參照)
- 二 柱、梁等ノ連絡薄弱ナルコト。(第二圖參照)
- 三 敷地ノ多クガ河海等ノ木邊ニ臨ミ、地盤軟濕ナルコト等ナリ。

建築物破壊ノ甚シカリシハ主トシテ以上三項ノ中何レカノ缺點ニ因ルト推察セラル、モノ多キガ故ニ、左ニ是等ノ事項ニ對シテ特ニ深ク考慮スベキ諸點ヲ舉ゲ、家屋構造ノ改善ニ資セントス。

家屋建築ニ對スル注意

一 敷地及基礎

- (1) 敷地ニハ堅硬ナル土地ヲ選ブヲ可トス崖地ハ好マシカラズ、埋立地其他軟濕ナル土地ニアリテハ特ニ基礎工事ヲ堅

固ニスルコト。

- (2) 基礎ハ成ル可ク硬キ地盤迄掘リ下ゲ堅固ニ搗キ固メタル上ニ之ヲ築造スルコト。
- (3) 硬軟不同ナル土地ニ跨リテ家屋ヲ築造スルコト好マシカラズ、止ムヲ得ザル場合ハ不同沈下ノ起ラザル様軟地ヲ充分ニ堅固ニ搗固ムルコト。

二 軸部

- (4) 土臺ハ外部ノ柱下ノミナラズ、内部ノ柱下ニモ之ヲ用ヒテ家屋全體ニ亘リ柱ノ脚部ヲ連絡スルコト。
- (5) 土臺ノ隅々ニハ燧材ヲ用フルコト。(第三圖參照)
- (6) 柱ト土臺トノ接合ハ充分堅固ナルコトヲ要ス、殊ニ隅柱等重要ナル個所ニアリテハ鐵物ヲ用ヒテ連結ノ全キヲ計ルコト。(第四圖參照)
- (7) 柱ハ成ル可ク家屋内ニ均等ニ之ヲ配置スルコト。
- (8) 成ル可ク多數ノ通柱ヲ用ヒ、管柱ヲ用フル個所ニハ鐵物ヲ以テ上下ヲ充分ニ連結スルコト。(第七圖參照)
- (9) 柱ト梁トノ接合ハ柄差等ノミニ依ルベキニ非ズ、柄ヲ折リ又ハ離シ或ハ柱ヲ折ルコト容易ナレバナリ。接合部ニハ成ル可ク方杖ヲ用ヒテ三角形ヲ構成シ、帶鐵、羽子板鐵、鋸、ポールト等ヲ用ヒテ之ヲ補強スルコト。(第五圖參照)

三 壁體

- (10) 壁體ハ家屋ノ外側ノミナラズ、内部ニモ成ル可ク多ク縱

横ニ之ヲ設クルコト。(第六圖參照)

- (11) 壁體ニハ必ズ筋違ヲ用ヒテ三角形ヲ構成スルコト。(第七圖、第八圖參照)

四 屋根

- (12) 屋根葺材料ハ輕量ナルヲ可トス、瓦ヲ使用スル場合ニハ之ヲ下地ニ連結スルコト。

五 防腐

- (13) 軸部特ニ土臺等腐蝕シ易キ所ニハ防腐劑ヲ用フルコト。

六 斜材

- (14) 家屋ノ何レノ部分ニ於テモ方杖、筋違等ノ如キ斜材ヲ用ヒテ出來得ルダケ多クノ三角形ヲ構成スルコトハ耐震構造上最モ簡單ニシテ最モ有効ナル手法ナリ。

七 保存

- (15) 家屋ハ時々之ヲ檢査シ用材ノ腐蝕、繼手、仕口ノ緩ミ等アルトキハ速ニ修理シ、補強ヲ怠ラザルコト。

被害家屋修理ニ對スル注意

- (1) 傾斜甚ダシク仕口繼手等ノ破損セル家屋ハ之ヲ改築スルコトト爲シ、其儘引起シ使用スルヲ避クルコト。

- (2) 柱梁等ニ於テ仕口繼手等ノ破損セルモノハ之ヲ取換フルコト。

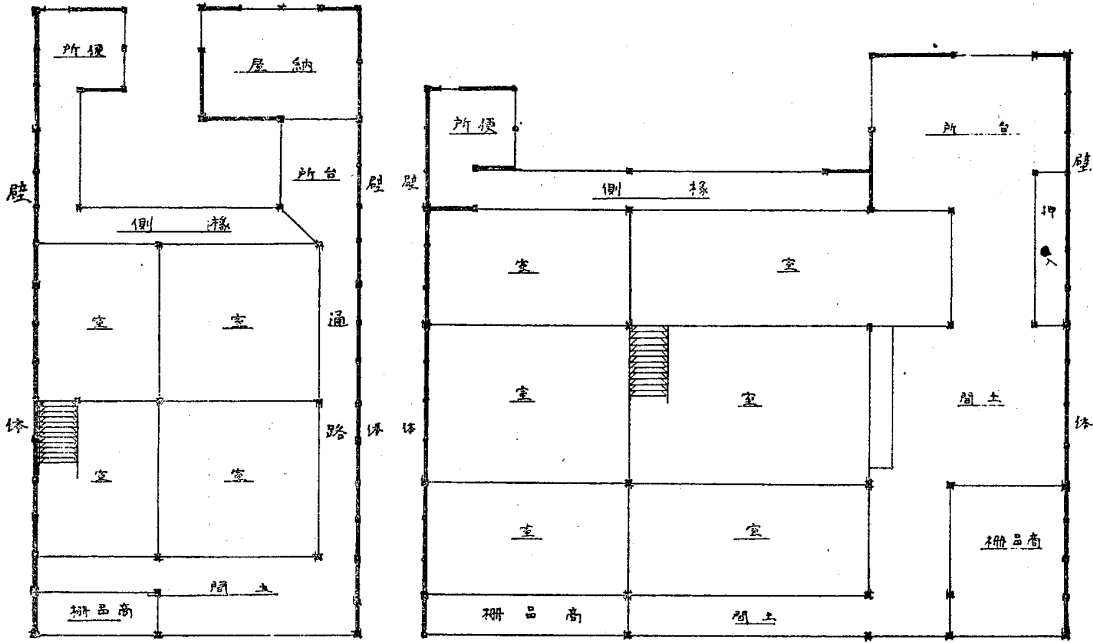
- (3) 壁體ニハ筋違、方杖其他ノ斜材ヲ用ヒテ成ル可ク多クノ三角形ヲ構成スルコト。

- (4) 柱ト梁トノ接合ハ方杖、鐵物ヲ用ヒテ補強スルコト。
(5) 柱、梁、土臺等ノ腐朽セルモノハ之ヲ新材ト取換フルコト。

- (6) 鐵物ヲ使用セル個所ハ其ノ緩ミヲ締メ直スコト。
(7) 附屬煙突ハ特ニ屋根裏ノ部分ヲ檢査シ破損ヲ修理スルコト。

圖 一 第

例、屋家ル又有力壁ニ向方一テシト主



此方向、振動ニ對シ抵抗力多シ

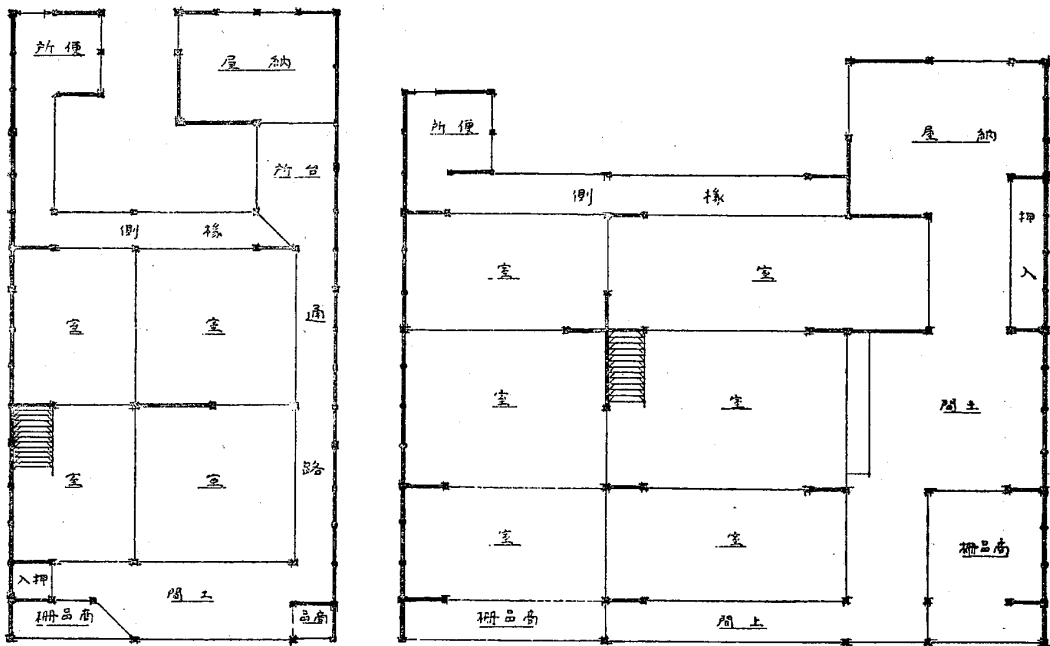
ニ少力抵抗ニ對シ、對稱ノ向方ノ此

路

道

圖 六 第

ル又有力壁ニ内屋家ル也示ニ圖一第



路

道

第百一號 但馬地方震後家屋建築及修理ニ關スル注意

圖 二 梁

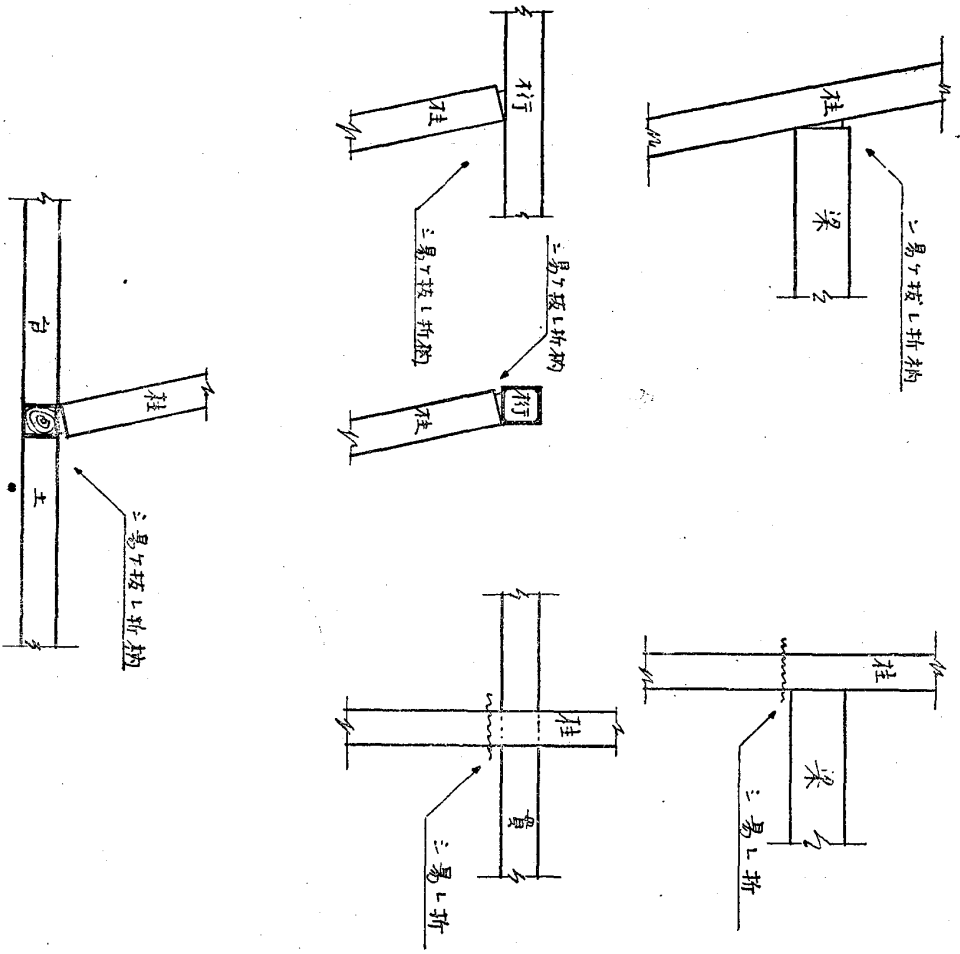


圖 五 梁

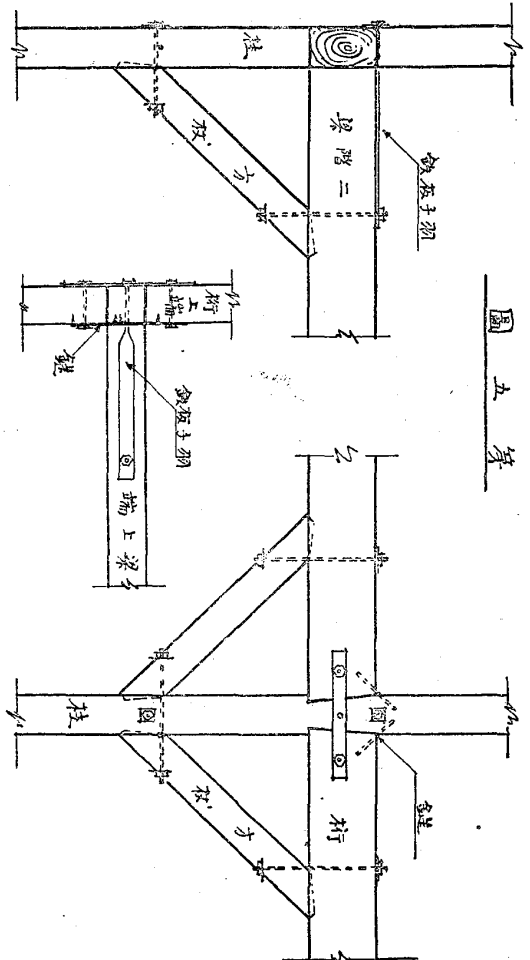


圖 三 梁

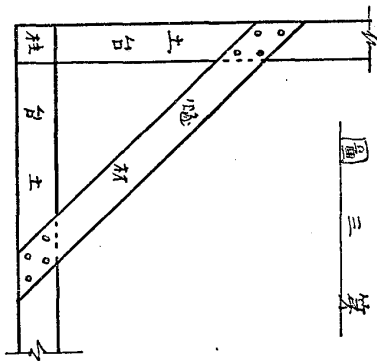


圖 四 梁

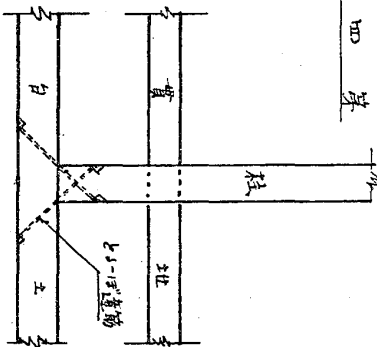
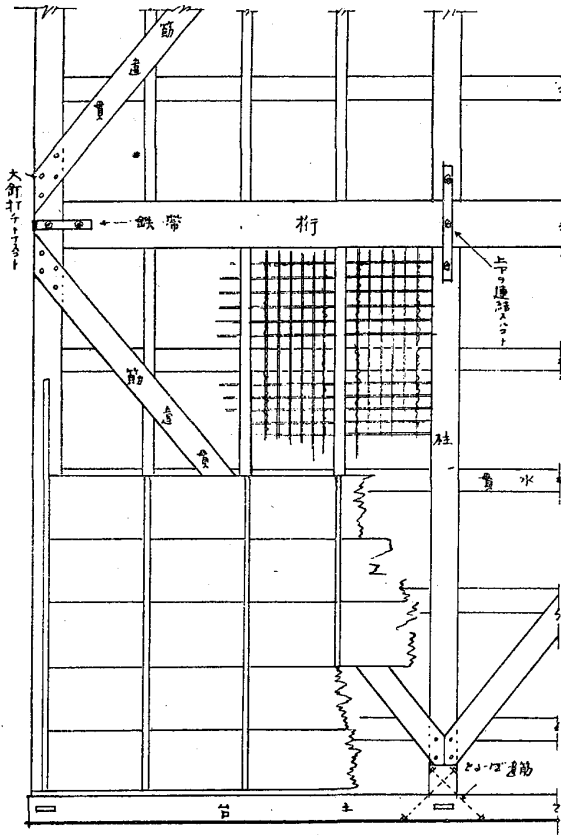
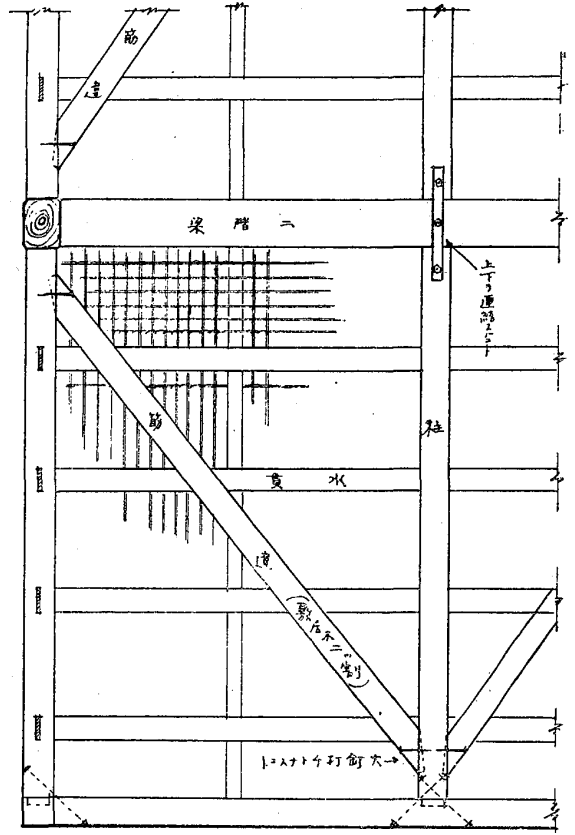


圖 七 第

第百一號 但馬地方震後家屋建築及修理ニ關スル注意

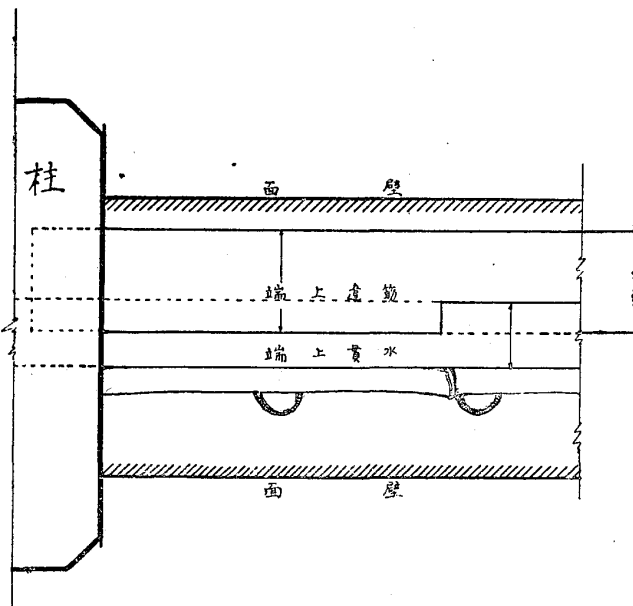


方々付取ノ透筋壁外

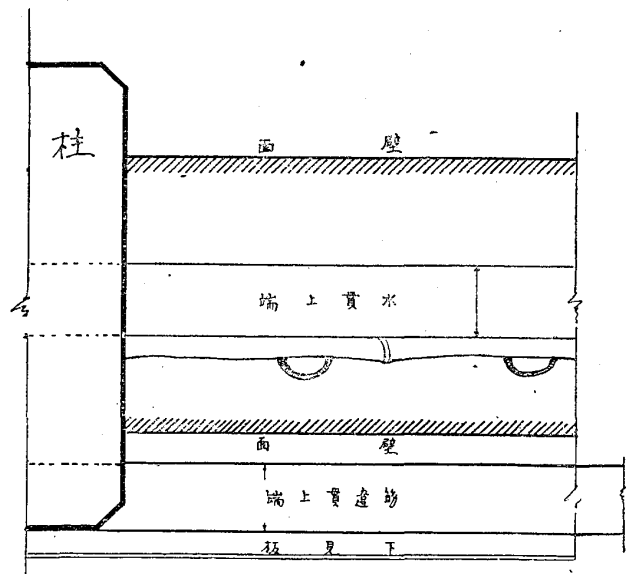


方々付取ノ透筋壁内

圖 八 第



又示ヲ置位ノ透筋壁内



又示ヲ置位ノ透筋壁外